

〒102-0081 東京都千代田区四番町5-3 サイエンスプラザ2階
TEL (03)5275-0620 FAX (03)5275-0871

URL <http://www.af-info.or.jp>
E-MAIL post@af-info.or.jp

平成19年度 研究助成金贈呈式

6月1日午後、経団連会館11階の国際会議場において、関係者列席のもとに研究助成金贈呈式を開催しました。冒頭、伊藤良一選考委員長と森島昭夫選考委員長から選考の経過や審査基準についての説明があり、続いて瀬谷理事長が助成金受領者の方々へお祝いの言葉を述べて、贈呈状を手渡しました。

引き続き、経済産業省・甘利 明大臣のご祝辞を経済産業省・立岡恒良大臣官房審議官から、また文部科学省研究振興局・徳永 保局長のご祝辞を研究振興局学術研究助

成課・袖山禎之企画室長からいただきました。

最後に、助成金の受領者を代表して東京大学大学院・大越慎一教授からの挨拶で式典を締めくくり、会場を移して懇親パーティーが行われました。

本年度、国内で新規に採択された助成研究は82件、これに継続分74件を合わせた国内助成総額は2億2,040万円です。

なお、本年度の助成研究は、当財団のホームページ(平成19年度 採択一覧)に掲載されてい

ますので、ご参照ください。



2007 旭硝子財団 助成研究発表会

7月10日、四ツ谷駅前にあるスクワール麹町において、本年3月に研究期間が終了した全分野の国内助成研究69件の成果発表会を行いました。

当日は朝から夕方までの長時間にわたり、発表者をはじめ関係分野の研究者や当財団の選考委員、他財団からのご来賓など、多くの関係者にご出席頂きました。

冒頭、瀬谷理事長の挨拶に引き続き、伊藤良一選考委員長(東京大学名誉教授)から発表会開催の趣旨説明があり、続いてそれぞれの分野ごとに発表が行われました。

発表形式は、まず最初に講演会場で発表者が順に3分間スピーチを行い、終了後、ポスター会場に全員が移動して、各ポスターの前でディスカッションを行うというものです。

異分野の研究者が大勢集まる機会でしたので、専門外の方々にもわかり易いスピーチをお願いしたところ、多くの先生方が大変に説明を工夫して下さいました。

また、ポスターも見易いものが多く、専門分野の異なる研究者同士が出会い、活発な意見交換を行う、非常に有意義な場となりました。

発表終了後には同じ会場で懇親会が開かれ、発表者や選考委員、ご来賓の方々の交歓が行われました。

今回の発表会では、遠方から宿泊をして参加して下さいました発表者が20名以上いらっしゃいました。ご出席者くださったすべての方々、運営にご協力くださった方々に、改めてこの場で感謝申し上げます。



瀬谷理事長



3分間スピーチ発表会場



伊藤選考委員長



ポスター発表会場



懇親会

海外研究助成金贈呈式 ならびに成果発表会

7月24日にタイのチュラロンコン大学において、次いで26日にインドネシアのバンドン工科大学において、研究助成金贈呈式ならびに助成研究の成果発表会を開催しました。

タイ・チュラロンコン大学

7月24日の9時から12時半まで、チュラロンコン大学の由緒ある Maha Chulalongkorn Building 講堂にて、助成金贈呈式と成果発表会を開催しました。



Maha Chulalongkorn Building

瀬谷理事長からの挨拶、ステイボン副学長による開催の辞に続いて、今年度の助成対象者8名に瀬谷理事長から贈呈状の授与が行われました。その後、医科学・一般科学分野と環境・廃棄物のセッションに会場を分けて、合計9件の研究成果に関するセミナーが開催されました。



助成対象者とチュラロンコン大学関係者、旭硝子財団関係者

インドネシア・バンドン工科大学



バンドン工科大学にて贈呈状を授与する内田専務理事

7月26日、バンドン工科大学 (ITB) の講堂において、助成金贈呈式と成果発表会を開催しました。ITB 研究渉外担当副学長のエミー教授、内田専務理事、ITB ジョコ学長の挨拶に続いて、助成対象者10名に内田専務理事から贈呈状が授与されました。研究成果発表は、昨年度に採択された研究助成10件について行われました。通信技術を活用した遠隔地教育・沿岸地域の保全といった、多島国インドネシアならではの課題、あるいは天然物有機化合物資源に関するもの、機械工学やアルゴリズムなどの研究成果が発表されました。



ITB Rector
Dr. Djoko

第16回ブループラネット賞受賞者

6月21日(木)、東京、経団連会館において瀬谷理事長、吉川弘之選考委員長、内田専務理事が、第16回地球環境国際賞「ブループラネット賞」の受賞者を発表しました。本年度の受賞者はカリフォルニア大学(バークレー校)教授のジョセフ・L・サックス教授と、ロッキー・マウンテン研究所理事

長兼 Chief Scientist のエイモリ・B・ロビンス博士のお二人です。

受賞者の選考は昨年6月に始まり、世界中のノミネーターから受賞候補者の推薦を頂き、選考委員会、顕彰委員会の審議を経て、本年4月の理事会・評議員会で受賞者が決定されました。

ジョセフ・L・サックス教授



カリフォルニア大学
(バークレー校)
教授

【受賞理由】

米国のみならず世界を代表する指導的な環境法学者であり、環境保全をどう推進していくかの根拠を、法の立場から理論的に構築し、水利権、環境保護訴訟を起こす市民の権利、環境影響評価に関する法律等、米国における環境関連法を先駆的に提示しました。中でも、公共信託財産という考え方を取り入れ、起草した世界最初の市民環境法であるミシガン州環境保護法は「サックス法」としても有名です。また、米国内のみならず、国際的にも各国政府、国連等多国籍組織を積極的に援助し、国際的な法理論の開発にも影響を与え、国際環境法が対象とする各種課題についても多くの考え方を提示しています。近年、文化的遺産や歴史的・考古学的資産といったものを保護する必要性についても公共信託概念の対象とすべきと位置づけ、環境保全のみならず、文化的資産の保護についても重要な役割を果たし貢献しています。

エイモリ・B・ロビンス博士



ロッキー・マウンテン
研究所
理事長 兼 Chief Scientist

【受賞理由】

地球環境保護に向け、過去40年間、世界の50カ国以上で、エネルギー利用の効率化、そして再生可能エネルギー源の利用への転換に貢献してきました。1970年代に、その根幹となるソフト・エネルギー・パスの概念を提唱して以来一貫して、エネルギー分野その他において、先駆的な概念を提唱し適用してきました。自然環境への大幅な負担軽減を可能とする超軽量、超効率の車、「ハイパーカー」を発明した他、建築物におけるエネルギー有効活用の可能性を実証しました。また、「ファクター4」や「自然資本主義」の著書で、資源生産性(資源の投入量当たりの財・サービスの生産量)を4倍にする具体例を示し、自然資源やエコシステムの重要性を説きました。博士の広汎な活動は、複雑に絡み合った世界のエネルギー、環境、資源、開発、安全保障等の問題に解決の道筋を示しています。

第16回ブループラネット賞「表彰式典」ならびに「受賞者記念講演会」

第16回受賞者をお招きして、『表彰式典』を10月17日(水)に東京會館において、また『受賞者記念講演会』を、翌18日(木)に国際連合大学ウ・タント国際会議場で開催いたします。